

エアー手つなぎだよ



行動

何か困ったことが
あれば……



共感

広がれ！

プラスのエネルギー

一番不安なのは……

想像



前回のあらすじと その後…

憲治、景子、徹、詩織は4人家族です。憲治の会社の同僚が、新型コロナウイルスに感染しました。憲治は、濃厚接触者とはならなかったのですが、一日会社を休み抗原検査を受けます。結果は陰性でしたが、「コロナ差別」の現実、自分のこととして向き合うこととなります。家族と話す中で、感染は誰にでも起こる可能性があり、感染者を責めても問題は解決しないことを再確認します。

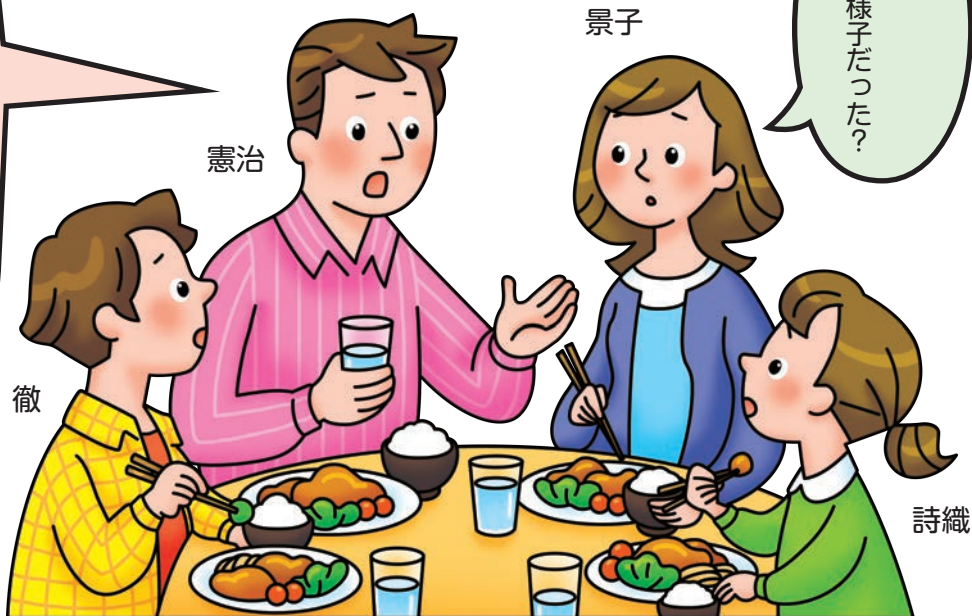
そして、翌日…

憲治は、それでもどこか不安を抱えたまま出社したのです。



その日の夜

会社は
どんな様子だった？



出社してみると、みんなしずんだ様子だった。外部からの問い合わせがあるかもって、不安な顔をしていたし…何となく落ち着かなかったよ

景子

そう。じゃあ、一日大変だったね。

憲治

いや、そうじゃないんだ。朝の打ち合わせの時、上司が…

一番不安なのは感染した本人じゃないかな



…って言ったんだ。みんな、はっとしてね。その後、「同僚を孤立させない」という大切なことをみんなで再確認して、これからの対応を考えたんだ。

外部から感染者を特定しようとする問い合わせがあったけれど、関係機関と連携して会社がきちんと感染対策を取っていることを伝えて、それ以上のことは答えられないって毅然とした態度で対応したんだ。

景子

感染は誰にでも起こる可能性があるんだから。「自分や家族が感染したら…」って想像することが大切よね。

憲治

想像することが大切かあ…。そういうえ
ば、今日、同じ部署の先輩から、こん
な話を聞いたよ。

県外で一人暮らしの息子さんから、新
型コロナウイルスに感染して自宅療養
中だと連絡があったそうなんだ。でも、
行くこともできずに、せめて食料を送
るからと伝えると「大丈夫だよ」と返
事がきたって。どうやらお付き合いを
しているパートナーがいたみたいで
ね、食料をすぐに届けてくれたって。

景子

そう。先輩は少し安心したでしょうね。

憲治

うん、安心したって言うていた。
でも、実はこの話、これで終わりじゃ
ないんだ。ほくも、びっくりしたんだ
けど、アパートにはパートナーの父親
も一緒に来たそうなんだよ。

景子

えっ？パートナーはわかるけど、父親
も？

憲治

うん。父親は、インターフォン越しに



景子

…と言うって帰ったそうだった。息子さん
は驚いて、後からパートナーに電話
で聞いたら、父親が「もし自分が親
だったらって思うと、いてもたっても
いられない…。一緒に行って声を
かけたい」と言ったらしい。先輩は
その父親の思いを知って、涙が止ま
らなかったって。

憲治

遠く離れて、何もすることができな
い親のつらい気持ちを想像して…自
分にできることが何かないかって考
えて行動する…会ったこともない人
なのにね。でも、心と心はつなが
ることができるんだ。素敵ね。

偏見や差別は確かに起こっている
し、許されないことだ。でも、先輩
の話のような出来事もたくさん起
こっているんじゃないかなって思っ
た。確かに人と人とは支え合って生
きていることを実感して、温かい気
持ちになったよ。

詩織

わたしはね、今日学校で「心の距離を近づける大作戦」をみんなで作ったのよ。

憲治

なんだか楽しそうだけど、どんな作戦を考えたの？

詩織

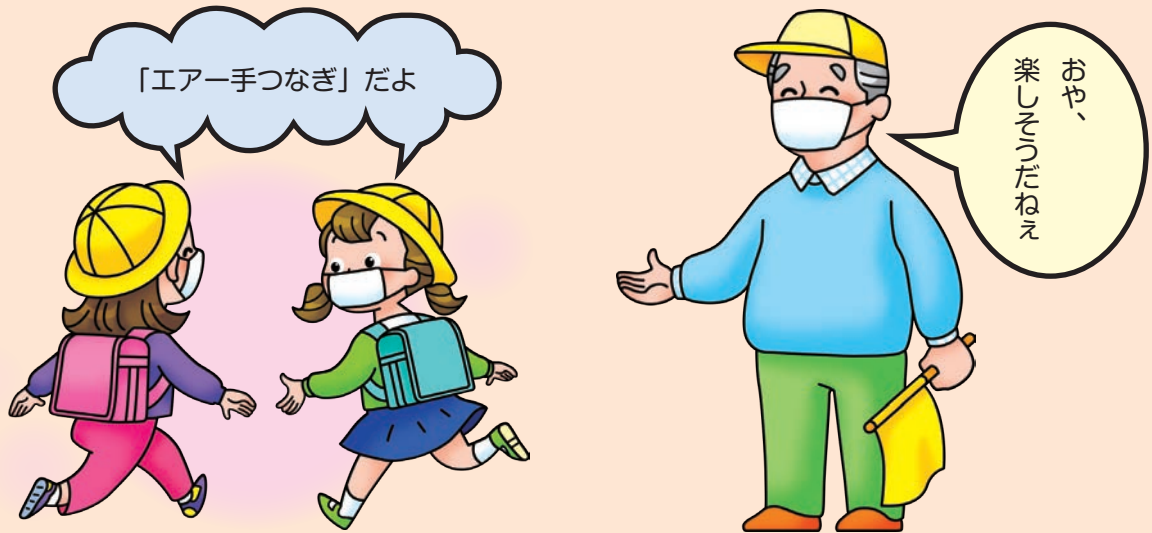
色々考えたけど、私のお気に入りは「エア―手つなぎ」よ。手をつながなくとも、二人でタイミングを合わせて腕を振るのよ。実際に学校帰りに友達としてみたの。心がつながっているみたいで楽しかった。その様子を見た交通指導員さんも、すぐ笑顔になってくれたよ。自分にできる「心の距離を近づける大作戦」をもっと考えて、やってみようって友達と話したの。

景子

いいアイデアね。心と心がつながるとみんなが笑顔になるのね。

憲治

子どものアイデアってすごいな。最近、感染症の不安で、笑顔が少なくなっていたかもね。



徹

ぼくは授業で、「偏見や差別をなくすにはどうすればいいか」ってことについて考えたよ。

憲治

偏見や差別をなくす？

徹

うん。クラスターの起きた施設に「頑張れ」と書いた旗を立てた人とか、医療関係者や配送業者の人たちに感謝の手紙を届けた人たちのことを知っている？ さっき、お父さんが話してくれた先輩の息子さんを支えた父親も、詩織が話した「エア―手つなぎ」もそうだよ。



一人の行動が周りに温かい雰囲気を広げて、そしてそれは偏見や差別を許さない雰囲気にもつながっていくんだって感じた。自分もそういう行動ができる人になりたいって思った。

景子

詩織も徹も学校でしっかりと学んでいるのね。

徹

うん。あっ、「学校だより」を渡すのを忘れていたよ。持ってくるね。

景子

今日の授業のことが書いてある。

景子

差別を許さない人の存在や行動に注目する。その人の生き方から自分の生き方を考える。そして、差別を許さない人の存在や行動が増えれば、偏見や差別はなくなっていく。そういうことなのね。

憲治

不安を安心に変えていく**プラスのエネルギー**があ。みんなの幸せにつながるエネルギーだね。きっと広げることができるよ。

景子

そう考えると、何だか元気が出てきた。相手の立場に立って想像すること、思いやりを行動につなぐこと…。今、自分にできるプラスの行動って何かを考えてみるわ…私にもできるわよね。

学校だより

〇〇〇〇学校
〇月号
発行日 〇月〇日

“プラス”の存在や行動!

偏見や差別は起こっています。しかし、その差別をなくそうとする人がいます。わたしは、その存在や行動が“プラス”だと思います。学校では、その“プラス”の存在や行動をもとにして、思いやりを行動につなぐことの意味を子どもたちと考えました。
“プラス”の存在や行動…私たちの周りにもたくさんあります。差別を許さない生き方について考えてみませんか…。

憲治

ずっと不安な中で、自分も自分の周りにもマイナスのエネルギーが溜まっていて、プラスの存在や行動に気付きにくくなっていたかもな。



心と心の距離を近づけるために、 チェックしてみましょう！

偏見や差別を受けるのが怖くて熱や咳があっても受診をためらい、結果として感染を広める一つの要因になっている現実があります。
感染しない、させない対策を徹底するとともに、確かな認識のもと偏見や差別をなくしていくことが大切です。

偏見や差別は絶対に許されません。

- 感染は誰にでも起こりうることです。もしも、自分や家族が感染したら…と想像することが大切です。
- 必要以上に感染者を特定することは、人と人との関係を希薄にしていく行為につながる可能性があります。
- ワクチンの接種は、本人の意思に委ねられています。何気ない会話の中に、打たなければならないなどの同調圧力につながる言動がないかを確認しましょう。

部落差別をはじめあらゆる差別は、差別する人がいるから存在しています。

差別する人を上回るくらい、差別を許さない人たちの存在を示すことができれば、差別は解消に向かうはずですよ。

差別される立場に立って想像すると、差別を解消するために大切なことは、差別を許さない人たちの存在であることが分かります。

そのような人の存在は、実は身近にあります。その人の生き方に触れ、共感することが自分自身のプラスのエネルギーとなります。

「差別は解消できる」という展望を持ちながら、自分に何ができるのかを考えること、自分のできることを行動に移していくこと、それがプラスのエネルギーを広げ、差別の解消につながっていくのです。

広げましょう。プラスの
エネルギーを！



2020.9.30 から J.COM ホルトホール大分 北側ガラス面に掲示

今こそ心と心をつなげよう

豊かな心を育む人権・同和教育

大分市教育委員会 教育部 人権・同和教育課 〒870-8504 大分市荷揚町2番31号 TEL.097-537-5651 FAX.097-532-8102